



議会だより



令和4年12月定例会・臨時会

あらまし・議案審議	2
予算審査特別委員会	3
臨時会	4
一般質問目次	5
一般質問 6人が登壇	6
委員会レポート・議員研修	12
わたしたちの町(千里小・吾妻小)	14

華やかな晴れ着姿で希望を胸に！
～二十歳を祝う会～



議会だより

マチイロのご利用は下の QR コードから



App Store



Google Play

福島県 耶麻郡 猪苗代町 字城南 100 番地

<https://www.town.inawashiro.fukushima.jp/>

地方公務員定年年齢引き上げ！

あらまし

令和4年12月定例会は、12月6日から12月15日まで開催されました。
町長から提出された議案は、令和4年度補正予算6件、条例の一部改正13件、条例の廃止1件、財産の取得1件であり、すべて原案のとおり、可決しました。
一般質問は6人の議員が2日間にわたり行いました。

【審議した主な議案】

定年年齢引き上げ

地方公務員法の一部改正に伴い、職員の定年年齢を段階的に2年毎に1歳ずつ65歳へ引き上げるための改正と、引き上げに伴う給与等を整備するための改正。

【猪苗代町職員の定年等に関する条例の一部改正】

【主な質疑】

問 管理監督者の上限年齢が60歳だが、管理監督者として残る職員が発生する可能性はあるのか。
答 現時点で該当する職員はいない。

【職員の給与に関する条例の一部改正】ほか7件

【主な質疑】

問 60歳到達の管理監督者が降任した場合の給与月額を7割とした背景は。
答 基本的には国県に準拠した。

【猪苗代町議会議員及び猪苗代町長の選挙における選挙運動の公営に関する条例の一部改正】

国の選挙に係る公営単価が、物価変動及び消費税増税を踏まえ増額されたことから、町の選挙に係る公営単価についても増額。

【猪苗代町ひとり親家庭医療費の助成に関する条例の一部改正】

県の補助要綱の改正に伴う用語の定義の改正。

【猪苗代町地域振興施設の設置及び管理に関する条例の一部改正】

RV需要の増加に伴う道の駅内RVパークの利用料金の増額。

【財産の取得について】

第三セクター(株)猪苗代地域開発が賃借する土地について、将来的に安定した秩序ある土地利用により、観光振興と地域の活性化、住民の福祉増進を図るため土地を取得。46万3654平方メートル、取得金額は土地開発基金を活用し、5300万円。

【主な質疑】

問 近隣には多くのスキー場があり、競合することになる。利用がどうなるのか疑問である。

答 猪苗代リゾートホテル・スキー場については、西山組合会や荒堀水利組合等の地権者や、近隣宿泊事業者へ与える影響が非常に大きいことから、財産を取得し早期に問題解決を図ってきたい。



猪苗代リゾート 全景

【審議した議案と可決状況】

件名	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	結果
	鈴木元	大高佐代美	渡部一登	星野あけみ	瀧田勝昭	佐藤悦夫	佐瀬真	佐藤英一郎	金本久美子	五十嵐ミエ子	後藤公男	関沢和人	長澤操	渡辺真一郎	
財産の取得について	○	○	○	○	—	○	○	欠	○	○	○	○	○	議	可決

右以外の議案については全会一致で可決しました。
※賛成：「○」、議長「議」、欠席：「欠」、議場に不在「—」
同数の場合には議長が採決に加わる。

予算審査特別委員会

議長を除く12人の委員で、令和4年度補正予算6件を審査しました。

令和4年度補正予算

【主な質疑】

一般会計

歳入

【使用料及び手数料】

問 旧東中学校給食室貸付による増額の内容は。

答 福島県ばんだい荘の厨房工事にあたり旧東中給食室利用に係る行政財産使用許可申請があつたため52日間の使用許可をした。

問 公有財産使用料の林道赤埴線の給水管理設の目的と距離は。

答 猪苗代スキー場人工降雪機の給水管による占用で、735メートル分である。

【災害復旧費】

問 この工事請負費1億2200万円で、8月豪雨被害の予算措置は最後か。

答 小倉川、達沢川の被害については、10月の臨時会において既に予算を計上済み(4ページ参照)。この町道市沢蒲谷地線第2号橋橋梁工事で、8月豪雨災の災害復旧分は全てである。



8月豪雨災の爪あと

国民健康保険特別会計

【諸支出金】

問 償還金、東日本大震災に係る一部負担金免除認定誤りに伴う特別調整交付金の返還の内容は。

答 自主点検をした際に東日本大震災に係る一部負担金免除について、要件にあたらない方が2名いた。

【国庫支出金】

問 利用者支援事業の母子保健型の補助率が3分の1から3分の2に変わった背景は。

答 子育て世代包括支援センターの運営事業に係る補助金で、国庫補助金交付要綱が改正され、町負担が3分の1から6分の1に改正された。



保健福祉課内に設置

【諸収入】

問 中学校旧校舎等解体工事受注者負担水道料20万7千円はなぜ町に入るのか。

答 粉塵やほこりの飛散を防ぐために水をまきながら解体工事を実施する。中学校の給水施設から仮の臨時水道メーターを利用し解体工事の方に水道管がいつている。11月、12月概ねの水道量を算定し計上した。

歳出

【総務費】

問 町税過誤納還付金は。

答 令和4年4月に固定資産税評価額の修正申入れがあつた。8月中に県の協力を得て現地調査を行い評価額誤りの修正をした。

問 電気料の高騰等による影響は町会計全体でどのくらいか。
答 今次の補正計上分で、一般会計分で2378万2千円、指定管理者分で58万2千円、公営企業会計分で848万5千円、合計で3284万9千円。年間にした場合、6500万円程度という試算になる。

【農林水産業費】

問 地域集積協力金・経営転換協力金の件数と内容は。

答 農地の集積に取り組んだ地域集積協力金が3地区分、経営転換協力金は部門の減少または離農で2名が対象となった。

問 新規就農者育成総合対策事業の内容は。

答 新規採択予定の新規就農者1名分で、就農しやすいよう機材等の導入に使えるような補助事業でトラクターの関連備品を導入予定。

【商工費】

問 商工業振興費の内訳は。

答 定住促進事業補助金510万円、民間賃貸住宅家賃補助金6万円、空き店舗利活用事業補助金(改装費)33万2千円。空き店舗対策事業補助金(家賃補助)12万円。民間賃貸住宅家賃補助については当初3件を見込んでいたが6件となった。

問 登山道刈払整備事業委託の減額の原因は。

答 総延長27・4キロを想定していたが、年間パトロールを依頼している山岳会のパトロール結果を踏まえ22・9キロとなった。

【消防費】

問 消防団員報酬の不用額は何名分なのか。

答 団の定数545名分を計上したが実際520名であり25名分の不用額となる。



日夜を問わず活動する消防団員

【教育費】

問 小学校1〜3年生の普通教室に空気清浄機導入の経緯は。

答 小学校に空気清浄機をという趣旨の寄附金229万円によるもの。

問 就学奨励費の対象児童が増加した社会的理由は。

答 市町村税非課税及び減免の方、児童扶養手当の支給を受けている方の必要保護申請があり、増えている。

臨時会

(10月31日)

あらまし

令和4年第7回臨時会は10月31日開催され、令和4年度補正予算1件を審議し、原案のとおり可決しました。

【審議した議案】

令和4年度

一般会計補正予算

オミクロン株対応ワクチン及び乳児ワクチン接種、非課税世帯等への電気ガス食料品等価格高騰緊急支援給付金、町民応援商品券発行事業費を計上。
財源として「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（国庫補助金）」、住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金給付事業費補助金等を計上、歳入歳出それぞれ2億9618万円を追加。

《民生費》

『価格高騰緊急支援』

電気・ガス・食料品等の価格高騰の影響が大きい住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金事業費5950万5千円を計上。

◎給付額…非課税世帯等

5万円／世帯

《衛生費》

『新型コロナウイルス接種』

オミクロン株対応ワクチン追加接種のための予算3398万4千円を計上。

問 オミクロン株対応ワクチン接種の内容は。

答 接種時点で12歳以上の方が対象。1回目2回目を打って3回目を打っていない方は最後に対応ワクチンを接種、3回目まで打った方は4回目に接種。また、60歳以上や基礎疾患を持たれた方が4回目接種してから3か月後に接種する。

《商工費》

『町民応援商品券発行事業』

電気・ガス・食料品等の価格高騰による生活者負担軽減と、町内事業者の持続的発展を支援するための予算7399万7千円を計上。

◎給付額…5千円／人



破損した温泉配水管（左）と湯桶（右）

『温泉施設災害復旧事業』

8月豪雨により中ノ沢・沼尻温泉の温泉配水管、湯樋、湯の華採取施設が大規模に破損したことから復旧のための補助金2860万円を計上。

問 補助金の交付割合は。

答 国の『激甚災害に対処するための特別の財源援助等に関する法律』の要件にあてはめ、事業者負担が3分の1、補助金が3分の2となる。

《災害復旧費》

『町道市沢蒲谷地線第2号橋・河川災害復旧事業』

8月豪雨に伴う町道市沢蒲谷地線第2号橋、小倉川・達沢川の復旧等工事のための予算6369万4千円を計上。

問 町道市沢蒲谷地線第2号橋復旧工事の完成予定は。

答 国の災害査定を受検後、年度内に工事を発注したい。完成は来年度になる見込み。

問 災害復旧費の用地取得費は、橋が護岸か。

答 第2号橋橋梁落橋の工事に伴うもので、落橋した箇所ではなく、その上流にかける予定。河川の右岸左岸とも取付道路としての用地取得費として計上した。



落橋した箇所

8月豪雨災害復旧予算可決！

臨時会

(12月26日)

あらまし

令和4年第9回臨時会は12月26日開催され、条例の一部改正4件、令和4年度補正予算5件を審議し、原案のとおり可決しました。

【審議した議案】

「議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部改正」

「町長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正」

期末手当を0.025か月分増額。

【反対討論】

【鈴木 元】

物価高などにより、民間企業の経営状況や住民生活は大変厳しい状況が続いている。特別職や議員は、経済状況等を鑑みて、痛みを共有し規範を示すことが重要であるため反対。

「職員の給与に関する条例の一部改正」

福島県人事委員会勧告に準拠し改訂される期末手当を0.025か月分、通勤手当、宿日直手当の限度額を増額。

「一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正」

福島県人事委員会勧告に準拠し給料月額を増額。

【審議した議案と可決状況】

件名	1 鈴木元	2 大高佐代美	4 渡部一登	5 星野あけみ	6 瀧田勝昭	7 佐藤悦夫	8 佐瀬真	9 佐藤英一郎	10 金本久美子	11 五十嵐ミエ子	12 後藤公男	13 関沢和人	14 長澤操	15 渡辺真一郎	結果
議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	欠	議	可決
町長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	議	可決

上記以外の議案については全会一致で可決しました。

※賛成：「○」、反対：「×」、議長「議」、欠席：「欠」、除斥：「除」、棄権「棄」、議場に不在「－」／同数の場合には議長が採決に加わる。

一般質問
町政を問う

〇〇〇 主な質問事項 〇〇〇

渡部 一登⑥
少子化対策

関沢 和人⑦
猪苗代町とISホールディングスとの包括連携協定

大高 佐代美⑧
子育てと教育支援

瀧田 勝昭⑨
地域活性化

星野 あけみ⑩
带状疱疹

五十嵐 ミエ子⑪
学校の統合

一般質問とは？

議員が町の行政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針を聞き、疑問点をたずねること。

本町の質問時間は、答弁を含め60分以内で1問1答方式である。

町のホームページでは、一般質問の録画映像を配信しています。
※この映像は猪苗代町議会の公式記録ではありません。



わたなべ かずと
渡部 一登

【質問】少子化対策のこれまでの取り組みと今の状況は。

【保健福祉課長】妊娠期からの養育支援訪問事業、出産手当の増額支給、子育ての不安や悩みを相談できる地域子育て支援拠点事業などを実施している。それらの事業については、改善・拡大しながら実施してきたが、少子化が解消され、子どもの人数が増加するというような効果はなかなか見られない状況にある。

【質問】町として、生まれる前の支援策は。

【保健福祉課長】本年度4月から、これまでの保険適用外であった一般不妊治療や体外受精などの生殖補助医療が保険適用となっていることから、町独自の不妊治療の助成については考えていない。



他市町村で導入している
オンラインサービス

【質問】本町には産婦人科や小児科がなく、同様にそれがない他市町村ではオンラインで相談を受けられるサービスを行政が契約して住民に提供しているが本町では導入できないのか。

【保健福祉課長】気軽にオンラインで相談すること、はメリットがあると考えているが、一番心配しているのが、かかりつけ医との関係をどのようにすればいいのかという点であり、今後、導入自治体の運用状況も精査しながら、本町の導入の可能性について検討していきたい。



利用者が多かった二次交通事業

Q. 二次交通事業(ひでよくん号)の利用実績は
A. 約5か月の実施期間で2900人の利用

【質問】これまでの経済対策の取り組みとして実施した町民割や商品券の状況は。

【商工観光課長】11月末現在の町民割は、約32%の1900万円利用されており、プレミアム商品券、ふるさと商品券は1万セットのうち9100セット利用され91%の購入となっている。

【質問】これからの観光に対してどのようにアプローチするのか。

【商工観光課長】3大人気である、温泉旅行、自然観光、グルメを各事業所と連携して誘客に繋げていく。
徐々に動き出しのあるインバウンド需要にも対応し、交通手段が乏しい状況を改善すべく二次交通にも力を入れていきたい。



せきざわ よりひと
関沢 和人

Q. (株)ISホールディングスとの包括連携協定は
A. 地域の課題解決や活性化を推進する検討段階

【質問】連携事項の「スキー場整備に関する事項」として赤埴山にゴンドラをあげ施設を作る会津テラス計画の進捗状況を伺う。

【企画財務課長】町も計画を共有しており、現在計画の検討段階である。

【質問】「観光農園整備等に関する事項」の進捗状況は。

【企画財務課長】7月にいちご園がオープンした。農業や観光につながるモデルケースとして、㈱会津観光ファームを設立し運営している。

【質問】「自然資源を活かした再生可能エネルギーに関する事項」の進展は。

【企画財務課長】大倉川や長瀬川などで小水力発電事業の実施が可能か関係者との協議中である。



期待されるスキー場・いちご園

【質問】「猪苗代駅前の活性化に関する事項」について伺う。

【企画財務課長】会社より協力の提案があり、駅前関係者の方などに話を伺いながらプランニングをしている。

【質問】「中ノ沢温泉の振興に関する事項」は。

【企画財務課長】活性化を目的に旅館のホームページの作り方など無料のIT研修会を継続的に開催している。

Q. 公共施設等の総合計画、個別計画は

A. 総合計画は平成29年3月に、個別計画は令和3年3月に策定している

【質問】計画の期間は。

【企画財務課長】平成28年から令和27年までの30年間となっている。

【質問】財政シミュレーションをした場合、財政不足とならないか。

【企画財務課長】30年間で41億円、年平均1・4億円の財源不足の試算となる。

【質問】今後の対策は。

【企画財務課長】優先順位づけや財政負担の平準化を図りながら、計画的に事業を実施している。公共施設等の保有数量の最適化、施設の長寿命化、民間活力の導入を対策の三本柱とする。

Q. 人口減少に対する積極的な対策が必要では
A. 移住・定住につながる層の拡大を図る

【質問】本町の子育て支援について伺う。

【保健福祉課長】在宅育児支援の手当などの金銭的な支援はしていないが、子育てに関する様々な

情報を提供し、産後の支援、定期的な乳幼児健診の実施、施設による遊びや相談の場の提供など様々な支援をしている。



おおたか さ よ み
大高 佐代美

【質問】特別支援が必要な児童の保育体制は。

【こども課長】保育士の数は不足気味な状況であるが、支援を必要とする子どもについては、児童一人につき保育士一人を専属で配置している。

【質問】特別支援を必要としている児童の数は。

【こども課長】全体で、9名である。

【質問】保育士の特別支援の研修の内容は。

【こども課長】特別支援の研修については、関わり方や支援の仕方など細部にこだわった研修になるので、年に1、2回、4人から5人、正職員及び会計年度任用職員を順次派遣している。

【質問】保育士の特別支援研修を受ける機会は。

【こども課長】3年から4年に1回程度である。

【質問】園児の家庭内の教育支援は。

【こども課長】園だよりによる広報活動を適宜行い、保育参観や教育講座で乳幼児期における教育、保育に関する理解が深まるよう支援を行っている。

【質問】園だよりによる具体的な働きかけは。

【こども課長】毎年2回、朝食アンケートを取り、朝食が保育に重要な影響を与えることの意識づけをした。

【質問】産後ケアをサポートする保健師の状況は。

【保健福祉課長】保健福祉課に7名、こども課に1名、栄養士1名である。



【質問】地区毎に分けて対応する利点は。

【保健福祉課長】令和3年度から保健師が地区割り担当制をとっている。妊娠出産から子育て期

まで、同じ担当の保健師が継続して、いわゆる伴走型で相談支援をしている。



Q. 運行休止中の福祉タクシーへの支援は
A. 来年度に向けて検討している

【質問】福祉タクシーの対象と利用状況は。

【保健福祉課長】車椅子を利用している方が通院の際に、料金の2分の1以内で1回の利用料金につき5千円を限度として給付するものである。登録者数は19名。現在の利用者は9名。

【質問】福祉タクシーへの考えは。

【保健福祉課長】住み慣れた猪苗代町で在宅生活を続ける公共交通機関を利用することが困難な車椅子利用の方々の生活支援も、非常に重要なものと考えている。



Q. 町の自主防災組織への支援は
A. 結成時支援、出前講座の開催

【質問】福島県は11月25日に、県内の活断層や太平洋沖の大規模な地震が起きた場合の被害想定を24年ぶりに見直し、公表した。どう捉えたか。

【総務課長】猪苗代町は全壊、焼失2067棟、半壊2022棟となり、人的被害も死者95人、負傷者数は692人となる。想定される地震に対応するために、建物の耐震化の推進や日頃から避難意識の高揚、啓発に努めたい。

【質問】耐震化補助は補助基準や一部改修等を認めれば、死者、負傷者を防げるのでは。

【建設課長】補助の内訳は国費が60万円、県費30万円、町30万円、合計120万円となる。耐震診断をし、耐震改修工事をする際には一部改修は補助対象にならない。

【質問】火山、河川、地震を含めた住民避難対策について、小学校を統合するでの避難所の扱いは。また、直下型地震や火山災害が起き、町に残れないときの対応などを町民に示すべきでは。

【総務課長】地域防災計画に基づき関係機関と連携し、災害の警戒レベルや被災予測状況等を判断し、避難情報等を出す。各種ハザードマップで情報提供や避難に関する周知や意識づけを図る。避難所24施設及び避難場所は小・中学校の統合はあるが、継続して避難所施設として確保する。域防災計画の見直しと併せて周知する。



磐梯山全景（気象庁HP アジア航測撮影）

Q. 地域の現状・課題の解決の人材育成は
A. 人口減少で人材確保は困難

【企画財務課長】支援は検討課題であり、例えば商工会や観光協会で実情を伺い、どの取組が必要か、検討する必要がある。

【質問】地域の創生の必要な人材確保のため町職員の副業・兼業を認めては。

【総務課長】長野県では職員の地域社会貢献活動応援制度で、報酬を得て行う公益性の高い社会的な貢献活動、職員の能力向上などを行っている。本町も、今後必要であればこれらの例を参考に、職員の人材育成や活動の従事内容を検討し、対応する。



たきた かつあき
瀧田 勝昭



ほしの
星野 あけみ

Q. コロナ禍における带状疱疹への対応は
A. 国や県の動向を注視し慎重に対応する

【質問】早期受診と早期治療が大切である。带状疱疹の周知の考えは。

【保健福祉課長】带状疱疹は水痘・带状疱疹ウイルスに感染して発症する病気で、時間の経過とともに皮膚症状が現れ神経痛や感覚異常が続くため、できるだけ早い治療が必要である。現時点で国の公式な統計が発表されていないため慎重に対応する。

【質問】予防対策としてワクチンがある。公費助成の考えは。

【保健福祉課長】費用や有効性、持続性や接種回数などの違う2種類のワクチンがあることは認識している。

国が積極的な接種勧奨を行っていないことからワクチンの公費助成は考えていない。



親子で交流、町の遊び場ちびっこランド

Q. 0～2歳児に特化したちびっこランドの開催は
A. 今後、検討していく

【質問】0～2歳児の支援は。

【保健福祉課長】産後ケア事業や妊娠前から継続的に行う養育支援訪問事業、子育て支援の情報提供を行う乳幼児家庭全戸訪問事業、地域子育て支援拠点事業（日向ぼっこ）、育児相談や遊びの提案など支援するちびっこランドを実施している。

【質問】虐待防止の取り組みは。

【保健福祉課長】こども園、学校、放課後児童クラブなど関係機関と連携して虐待の早期発見、早期通報を呼びかけている。

未然防止として健康相談や健康診査、乳児家庭全戸訪問事業で早期把握に努めている。

【こども課長】疑いのある場合は注意深く見守り直接確認をとっている。健診時には目視で確認し早期発見に心がけている。

【質問】子育て支援センターの周知は。

【保健福祉課長】保健福祉課内に設置の「子育て世代包括支援センター」は妊娠届や乳児全戸訪問時に支援ガイドブックを通じて周知している。

昨年度からは保健師を地区担当制にして妊娠・出産期から子育て期における相談支援に努めている。

【こども課長】子育てに関する支援体制を整え、さくらこども園・ひまわりこども園に設置している。保健師が常駐して広く相談に対応する。広報誌やホームページ、園からのお便りなどを活用して保護者や住民への周知を図っていく。

Q. 肥料価格上昇による農業者支援は
A. 今後も対策を講じたい

【質問】新規農業者の確保や育成の支援は。

【農林課長】国の新規就農者育成総合対策事業を活用し、新たに農業を開始する方に対し経営開始資金の助成事業を現在行っている。

【質問】堆肥センターの堆肥を最大限に活用し、安価で効果的な施肥の実施などに取り組むべきと考えるか。

【農林課長】町内で発生した有機資源を原材料に「未来の夢たい肥」を製造している。今後も資源循環型農業や環境保全型農業を推進する。

Q. 所得階層区分を見直し保育料の引き下げを
A. 現在、保育料の改定を行う予定はない

【質問】本町の保育料は。

【こども課長】国が定める利用者負担額の上限額を基準とし、保育料の区分を国の8段階を7段階に改定している。近隣町村と比較すると高めとなっている。各自治体の実情に合わせ定められており、複数児童

【質問】今後の子育て支援は。

【町長】財源と近隣市町村と整合性を図りながら立派に子どもたちを成長させて保育していききたい。



いがらし みえこ
五十嵐 ミエ子

Q. 統合中学校のバスの登下校は
A. バス事業者と協議を重ねる

【質問】路線バスのバス停をスクールバスの乗降と同じ場所に出来ないか。

【教育総務課長】これまで路線バス運行事業者へ申し入れてきた。引き続き、協議を重ねる。

【質問】小学校の統合事業の現状は。

【教育総務課長】8月23日に提言書の提出を受け、小学校を2校とするべく、令和4年9月に第1回目の統合小学校開校準備委員会を開催し、これまで3回開催した。その中で、猪苗代小学校と千里小学校舎を利用することとした。

【質問】3校から2校になった理由は。

【教育総務課長】統合について協議を継続してきたところ、令和2年度には、出生数の減少が明確になり、令和3年度に各小学校の保護者、各区長会へご説明をし、おおむね了解をいただいた。



路線バス利用の生徒

【質問】小学校を統合すると地域が疲弊することが懸念される。計画を再検討すべきと考えるか。

【町長】保護者負担の軽減を図りながら、子どもたちに愛の手を差し伸べていきたい。統合については、前向きに進める。

委員会レポート

文教厚生常任委員会

スポーツの振興について

【概要】山形県上山市、蔵王坊平アスリートヴィレッジは、標高千メートルの坊平高原にあり、山形県及び上山市が整備し、日本オリンピック委員会から高地トレーニング強化拠点施設に指定されたナショナルトレーニングセンターである。スキー場、宿泊施設、屋内運動施設、クロスカントリーコース（日本陸上競技連盟、国際スキー連盟、全日本スキー連盟の公認）、全天候型トラック等の施設がある。

山形県、上山市、日本陸上競技連盟、民間等が、トップアスリート等のスポーツトレーニングのメッカとするべく、日本スポーツ界への貢献・スポーツ振興・次世代育成の拠点等を基本理念とした協議会を設立している。

関係中央競技団体が強化戦略プランに基づく強化活動を効果的に進めるよう、必要なトレーニング環境及びスポーツ医・科学、情報等によるサポート体制等の整備充実を行っている。夏季を中心に、日本陸上競技連盟等の強化選手や、各競技のナショナルチーム、企業や大学の陸上競技部などが合宿を行っている。



冬季はSAJ公認のクロカンスキーコースとなる日本陸連公認のクロスカントリーコース

【意見】ベルリン五輪代表村社講平氏が、坊平の地質等が長距離陸上競技に最良であるとして、選手が多く練習していた。本町も「スポーツ振興宣言の町」であるとともに、フリースタイルスキー世界選手権、国体スキー競技などが開催され、スキーなどのメッカである。ただ、各大会のレガシイといえるものはなく、大会開催のみの施設整備となっている。先進地を参考に、本町の可能性について、県、関係中央競技団体、民間、学識経験者などとともに、「本町のスポーツ」、近隣自治体を含めた「磐梯山周辺のスポーツ」についても、調査研究する必要がある。

総務常任委員会

ふるさと納税と熊本地震からの復旧・復興について

【概要】熊本県高森町、平成27年度から2億円という多くの寄付を集めることができたが、近年競争力が落ちてきたため、委託業者をふるさと納税に実績のある民間会社に変更し、ほぼ全ての業務を任せることで現在32億円にまで伸びている。

特徴は、歌劇団を使った積極的なPR、使い道を町民へ還元する事業に限定していること、町長自らセールスを行っていること。返礼品として一番人気の商品は、銘柄にこだわらないブレンド米であり、美味しそうに見える工夫や、素早いクレーム対応など。

【熊本県熊本市】熊本地震は平成28年4月に発生し、熊本城は各所の櫓や石垣が崩れた。天守閣は復旧したが手つかずの状態の箇所が多く30年かかると言われている。周辺の住家、公共施設、インフラなども甚大な被害を受けた。市民や行政、関係団体の3つの力を束ねて、慢心することなく災害に対する備えを行っている。



地域密着型
たかもりポイントチャンネルの制作

【意見】ふるさと納税額を増やして町民に還元を図っていたきたい。高森町は自然豊かな町であり特に本町と変わらないが、全国第2位の寄付を集めている。ノウハウを持つ委託業者と連携して町のイメージアップに繋げ、また約20名以上の地域おこし協力隊を採用しており、このような良い事例を参考にさせていただきたい。

熊本地震は、想定以上の被害と被災があり、情報が錯綜し緊急時の課題があった。本町でも川桁断層があり、同じような地震がいつ発生してもおかしくないため、日頃からの備えを十分に整えていただくよう要望する。

福島県町村議会議員研修会



令和4年10月24日、郡山市ビッグパレットふくしまで研修会が行われた。

「町村議会のあり方と今後の議会改革-ウィズコロナを意識して」と題し、東北大学大学院准教授河村和徳氏を講師に迎えた。

内なる改革は地方議員のあり方を見直し、自主的な改革を試みる。外からの改革は制度改正・法令改正に対して言及をし、方向性をはっきりすることが必要だ。地方議会の活性化の課題は住民から「見える化」することであると聴講した。

また、政治ジャーナリスト細川隆三氏による「日本の政治の行方〜ズバリ解説！政局の焦点」の講演も行われた。

会津耶麻町村議会議長会 議員研修会

令和4年10月7日、アクティブリゾーツ裏磐梯で研修会が行われた。

「町村議会の現状と課題について」福島県町村議会議長会吾妻邦博専門員を講師として迎えた。

今後の町村議会のあり方に関して、議会への住民参加、議会における多様性の確保、議員のなり手不足の要因と対応、機能強化及び多様な人材が参加するための環境整備等の重要性を講演された。各町村議会からの質疑応答もされた。

また、スペインが生んだ最も多様な画家サルバドル・ダリで有名な諸橋近代美術館を見学した。



経済建設常任委員会

水道の管理運営と官民連携によるまちづくり

【概要】岩手県平泉町、平成24年度予定の水道料金改定を東日本大震災の発生などを理由に先送りしたが、翌年度決算で純利益が激減、現行の料金水準では健全な経営が困難と判断し、平成27年度に一般家庭用の基本料金で170円、超過料金で1㎡あたり21円値上げした。これにより改定前と比較して、給水収益が令和元年度で約10%、減債積立金が令和3年度末で約75%、建設改良費は53%の増となった。

下水道事業は、県主導で汚水処理施設の共用等ハード面や、料金徴収等ソフト面の共同化が進められている。

【岩手県紫波町・オガル紫波】町民の資産である町有地を活用し、最小限の財政負担による公共施設整備と民間施設立地による経済開発を目的としたオガルプロジェクトでは、まず人が集まる場所を作り、それから商業施設を誘致する手法を採った。図書館や運動施設ができると飲食店が増え、次第に宿泊施設や医療機関が入居する複合施設ができ、定住人口増加に繋がった。



先進地の状況を調査

【意見】エリアへの年間来場者数は100万人前後で推移しており、コロナ禍でも十分運営しているだけの収益を上げている。

本町の水道料金は近隣市町村と比べて安価だが、給水収益の減収が見込まれる中、安全・安心な水を供給していくためには古い水道管の更新も計画的に進めなければならず、将来的には料金の改定についても町民に丁寧に説明していかなければならない。

官民連携によるまちづくりについては、役場周辺に集約されている体験交流館や図書館、総合体育館を活用した賑わいづくりに町民のユニークな発想を積極的に取り入れるなど、本町ならではのまちづくりが必要である。



わたしたちの町



「野口音楽祭に感謝」

こばやし ゆい
小林 悠生 さん
(千里小6年)

私が野口音楽祭に参加して感じたことは、感謝の気持ちです。私たちが千里小学校合奏部は、県大会出場を目標に、練習を頑張ってきました。しかし、新型コロナウイルスが流行し、参加することすらできませんでした。悔しくて涙が出ました。でも、そんな私たちに演奏する機会が与えられました。野口音楽祭です。私は今まで演奏する場があることを、当たり前だ

と思っていました。でも、それは当たり前ではないことに気づきました。色々な人たちが力を尽くしてくれてのおかげで、私たちが演奏できることを知りました。音楽祭当日は、感謝の気持ちを込めて演奏しました。これから周囲の人への感謝の気持ちを忘れずに、過ごしていきたいです。

ほとくの住んでいる猪苗代町は、自然がとても豊かな町です。きれいな山や大きな湖があり、季節に合わせて、自然を生かしたレジャーも楽しむことができます。春には観音寺川沿いを、たくさん桜がうめつくし、うす桃色のきれいな景色が生まれます。夏には、猪苗代湖でキャンプや湖水浴、サップなどのスポーツを楽しむことができます。秋には、青々と茂っていた木々

も、様子を一变させ、赤色や黄色が混ざって、美しい紅葉を見せてくれます。そして冬には、たくさん雪が降り積もり、僕の大好きなスノーボードやスキーなどができるようになります。猪苗代町は一年間を通して、町に住む人々や町外に住む人々からも愛され続けています。それだけ力があるのだと思います。すばらしい自然に恵まれた猪苗代町は、ほとくの自まんです。

「自まんの自然」

えんどう かいと
遠藤 快音 さん
(吾妻小6年)



傍聴においで下さい

**3月議会は
3月7日(火曜日)
開会予定です。**

【一般質問予定日:13日(月)・14日(火)】

※質問者・質問内容については3月1日以降に町のホームページに掲載します。また右施設にチラシを掲示しますのでご覧ください。

掲示施設名

- ・役場町民ホール
- ・学びいな
- ・和みいな
- ・カメリーナ
- ・町立猪苗代病院
- ・老人福祉センター
- ・まちのえき まるしめ

新型コロナウイルス感染症により献血協力者が減少するなか、クリスマス献血では猪苗代高校の皆さんが献血を呼びかけていました。



今年の表紙

成年年齢が18歳に引き下げられたため、本年より『二十歳を祝う会』となりました。いつかマスクなしで友人と再会できる日が来ますように…



編集後記

年末にかけての恵まれた降雪のおかげでスキー場も多くの人々で賑わっております▼猪苗代町では冬のシーズンには除雪も大変ですが、その雪のある冬にしか見えない景色も絶景です▼今回の議会だより12月定例会では、旧猪苗代リゾートスキー場近くの財産の取得にかかる議案審議がありました。この土地を町が取得することで、押立温泉の復旧とスキー場の再開が期待できそうです▼これからも町民のみなさんが住みやすい町になるよう、町民のみなさんや議員、行政が共に考え工夫しながらつくる町へ取り組んでいきます▼今の猪苗代町がどのような状態になっているのか、何が行われているのかを本議会だよりで伝えられればと思っております。

渡部 一登

議会広報編集特別委員会

委員長 長澤 操
副委員長 大高佐代美
委員 鈴木 元
委員 渡部 一登
委員 星野あけみ
委員 瀧田 勝昭
議長 渡辺真一郎